

福江湾アサリ資源状況調査

東三河漁協青年部連絡協議会

1 背景と目的

渥美半島南部に位置する福江湾では、アサリ漁業が盛んに営まれており、全国でも有数のアサリ漁獲量を誇っている。しかし、アサリは資源量の増減が激しく、漁獲量が多い年、少ない年があり、毎年、十分な漁獲量を安定的に確保することが課題となっている。このため、若手漁業者の活動組織、「東三河漁協青年部連絡協議会」が資源管理によるアサリ漁獲量の安定化を目指して、平成30年度からアサリ資源状況調査を開始した。

2 調査内容

調査地点を、アサリ漁場4地点（図1. 大阪、エビス、新切、夢沖）に設定した。月1回、漁業者が自作した特製の採泥器（図2）を使ってアサリをサンプリングし、採取した砂泥の中からアサリを回収し、個体数を数え、個体密度を調べました。また、大きさ（殻長）、身入り（肥満度）状況についてモニタリングした。



図1. 調査地点図



図2. 漁業者特製採泥器とサンプリングの様子

3 調査結果及び考察

(1) 個体密度

稚貝の発生が多い時期は、6・7月頃でした。ほぼ一年中漁獲されている福江湾のあさは、わずか2カ月間の間に発生する稚貝資源に支えられているという事がわかり、この時期に発生する稚貝資源を保護・管理していくことが重要であることが分かった。

個体数の減耗は稚貝発生直後の8月に著しいことが分かった。この時期の稚貝減耗を抑えることが、当湾のアサリ資源管理をしていく上で、重要であると考えられた。

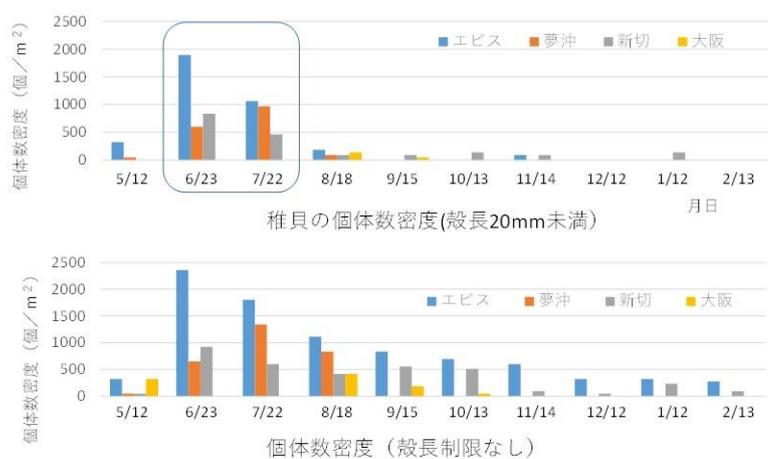


図 3. アサリの個体数密度

(2) 大きさ

時期により、殻長 35mm 以下のアサリは、ひと月に概ね 3~4mm 殻長が成長することが分かった。

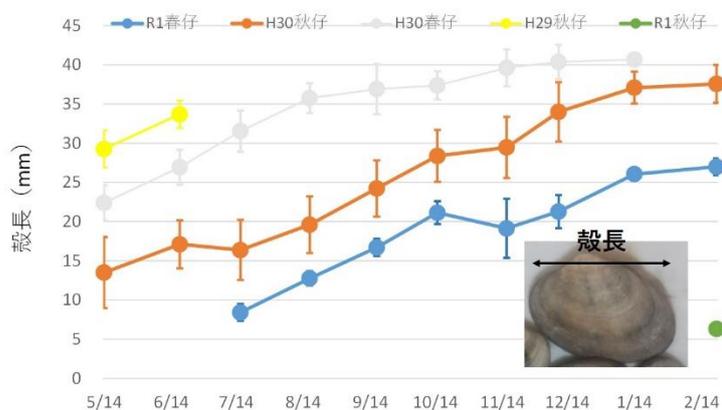


図 4. アサリの殻長の成長

(3) 身入り

5月～2月の調査期間で身入りの指標である肥満度の値が最も高かったのは2月で最も低かったのは10月であった。肥満度が低い時期は、アサリが痩せて弱っている時期であり、この時期に漁獲や台風等の風波による掘り起こし等のストレスをかけると、アサリが死んでしまう可能性があることから、今後、対策を考えていく必要がある。



図5. アサリの肥満度

4 資源管理活動の紹介

これまでの調査結果を参考にして、次のようなあさり資源管理を進めている。

(1) 袋網を用いたアサリの保護活動

波浪や害敵から守るため、袋網に入れてアサリの保護を行う試験を行っている。



図6. 袋網に収容したアサリ

(2) 害敵生物の駆除活動

アサリを捕食するツメタガイの卵塊の駆除。



ツメタガイの卵塊（砂茶碗）

図 7. 駆除活動の様子とツメタガイの卵塊